

大阪成蹊短期大学 令和二年度 卒業式式辞

春の雨は、芽吹いたばかりの木々の若葉をいたわるように、柔らかに降り注ぐ優しさを感ずる季節となりました。

只今、704名に学位記を授与しました。ご卒業おめでとうございます。

現在も、新型コロナウイルス感染防止に万全な対応が必要であり、今年は短大と大学の卒業式を分離し、保護者の皆様には会場へ入場ご遠慮いただいている状況ではありますが、私たち教職員は皆さんの門出を祝う気持ちに満ちており、コロナ禍において卒業式を実施できたことを、皆さんとともに喜びたいと思います。

この一年間、新型コロナウイルス感染防止のため、本学でも大きな試練が続きました。短大の二年間という短い就学期間の中で、感染防止を強く意識しながら、皆さんの学修の保障をどうするかという大きな課題は、私たちがこれまで経験したことのないものでした。前期の授業をほとんど遠隔で行いましたが、私たち教職員は遠隔であっても、皆さんの学びを保障するため、教材や課題内容を様々に工夫してきました。そして、レポートに追われる日々が続く中、しっかり応えてくれた学生の皆さんの努力を高く評価しています。対面授業では見られなかった皆さんの学習への姿勢と意欲を目の当たりにして、私たち自身も、学生の皆さんの意欲にこたえるべく、より一層、丁寧な指導に努力してまいりました。他の大学では、一年間の全てを遠隔授業で行った大学があると聞いています。本学は年度の途中の早期に対面授業に戻したり、また遠隔と対面をハイブリッドのように適所で組み合わせるなど、皆さんの学びを最優先し、真摯に取り組んでまいりました。その結果として、本学の今年の就職内定率は、コロナ前の昨年とほぼ同レベル、100%近い割合に達しています。また学生の皆さんが回答した授業評価アンケートでは、皆さんの満足度は、昨年以上に高い評価に上がったことは、大変うれしく思います。

さて、二年前の入学式、私は皆さんに将来に向けた自分の「夢」と「志」持つことが大切だと述べました。その時、明治時代の黎明期、札幌農学校のアメリカ人の教師であったウィリアム・スミス・クラーク博士の有名な「Boys be ambitious!」、「少年よ。大志を抱け。」の言葉を引用し、この「大志を抱け」の言葉には続きがあり、さらに奥深い示唆があることを紹介しました。

「人間は、金銭や名声などの、むなししいものを追い求めるのではなく、人としてのあるべき姿である心豊かな人間性を追求し、他者と良好な関係を築く人間力、そしてあらゆることを成し遂げる実行力、そしてそれらを追い求める志を持って世に出よ」

ということを、クラーク博士は若者に求めているという話をしました。

ここでの「志」とは、「何のために生きるのか、何のために働くのか」、「人のため、家族のため、社会のために自分は何をすべきか」、「今やるべきことは何か」など自らの意思で、明確な目標を定め、それに向かって行動することです。この教えは、その後の明治時代の若者に大きな影響を与え、明治維新のリーダーたちに脈々と受け継がれました。明治の文明開化や富国強兵など、江戸時代の封建社会から日本の近代化に向けた大きな変革の原動力の一つが、若者たちの「志」であったという話です。

一方、令和の時代の現在、私たちを取り巻く社会も大きく変化しています。本学が主催している未来塾セミナーの講師で、文化・社会のオピニオンリーダーである池永先生は、今回の新型コロナウイルスが引き起こしたパンデミックは、大規模な社会変革を生む機会であり、日本の近代史における三回目の大きなリセットになると述べておられます。一回目のリセットは、先ほど述べた明治維新、二回目のリセットは太平洋戦争での我が国の敗戦時です。

三回目のリセットに入った現在、ITやAIテクノロジーはかつてない程、急速に発展しています。世界の状況をみると日本の技術力は世界的に認知されているものの、現実の社会状況では、我が国の情報インフラは他の先進国から明らかに遅れています。池永先生は、日本の技術は進んだものの、我が国では社会として、これらの技術をどう活用し、社会環境をどう革新するのかまで至っていないということです。つまり、我が国では技術と社会の分離

があり、その結果として我が国の情報社会は遅れていると述べられました。しかし、今回のコロナ禍により、企業のテレワーク化が普及をはじめています。また、インターネット上での商取引が増え、Web会議やWeb面接などオンラインを活用した社会活動が更に広がっています。明らかに、社会の構造変化が起こり始めています。これまで物資や人材、情報など企業活動に必要なものが東京に集中していましたが、必要なものが東京に集中するからこそ、東京に人と企業が集まるという再生産の構造が生まれていきましたが、今回のテレワーク化の広がり、東京シフトから全国シフトへ脱却する機会となっております。実際、多くの企業が東京以外の地方に活動拠点を移動しています。このコロナ禍の第三のリセットは、このように「情報技術の進展と社会活動の革新を引き起こしており、いわゆる情報革新が、社会の空間や時間の変革を生む」と、池永先生は主張されています。

このような、変革の時代、リセットの時代に私たちはどう生きて行けばよいのでしょうか。

もう一度、クラーク博士の「Boys be ambitious」、 「少年よ。大志を抱け。」の言葉を思い起してください。明治維新を駆け抜けた若者たちの志は、新たな時代を作りだしました。今回のコロナ禍でも、皆さんの「志」は皆さん自身を、成功に導くとともに、それぞれの「志」は新たな社会を作る原動力になると私は確信しています。

「夢」とは、漠然とした個人の願望ですが、「志」とは個人の願望を超えて、多くの人々の夢を叶えようとする気概です。個人の願いだけでなく、もっと公的で、周りや社会を巻き込む強い想いを含んでいます。

世の中が変わろうとする中で、自分を見失わず、また変わりゆく人や社会に流されることなく、常に自分の意思を持って力強く生きることが、変革の時代の生き方でしょう。明治維新の若者たちがこのような「志」をもって生き、活躍したのと同様に、コロナ禍の中にあっても、大阪成蹊短期大学で学んだ知識と技術を生かすとともに、本学で培った建学の精神である人間力と自主的な実行力を大いに発揮してください。そして、周りの人と関わり、人を動かしてください。これからの長い人生を、強く生きてくれることを期待しています。

最後に、皆さんが「志」をもち、自分らしく、誇り高く、輝く人生を歩まれることを願っています。卒業にあたってのはなむけの言葉とします。
改めて、ご卒業おめでとう。

令和3年3月21日 大阪成蹊短期大学学長 紺野 昇